



独創的でちょっと贅沢なデザイン
自作だからできる入念な作り

Ikuo Tsunoda's Power strip

Design & production, Text by

角田郁雄

●この電源タップの狙い

聴感上、音の透明度を高め、高解像度特性（特に弱音と倍音再現性向上）に貢献すること。言い換えれば、空間に生々しい演奏のさまを描写することである。この電源ケーブルの持ち味となる、ワイドレンジでダイナミックレンジの広い特性を活かすため、徹底した静電気除去と高い電磁波除去にこだわった。また自作だからできる、独創的でちょっと贅沢なデザイン性も狙った。

●音のポイントとアクセサリ対策
弱点のボックスを強化しつつ
高鮮度な音の実現を追求した
狙いとするテーマの実現のためには、伝送特性が高く、振動の影響を受けにくいことが大切で、特に高いシールド特性を重視している。それには、電磁波と振動に弱い、塩ビのコンセントボックスが問題となる。そこでボックス内部は、底面にシルク製綿を約1cm厚で敷き、コンセントの周囲を多数の水晶の粒で埋め尽くした。これにより微細振動を低減させ、あたかもシールド性の高い、高純度ジュラルミン・ボックスではないかと感じるほどの音の透明度、高S/N、高解像度特性に近づけ、クリン電源を通したかのような鮮度の高い音質も狙った。モノラル・パワーアンプ2台にも対応するほか、自宅のパワーアンプ、アキュフェーズA・75とブルマスター911 Mk3で使用したいと、本



作者による自己評価

製作が実に楽しかった！反省点も多いが、まずまず愛用パワーアンプの新しい音として、私は気に入っている。Pure Blackデザインも。本作品は、一聴しただけでいい音という音的な色気は一切ない。鮮度の高い透徹した音が主役。

気で取り組んだ。
電源ケーブルを予めカーボン・シールド・メッシュチューブに通し、端末をビニールテープで固定することを肝心。その後、ケーブルをボックスに通す。コンセントとプラグの導体締めつけは、絶対に強固に行うこと。次にコンセントをボックスに取りつける前にシルク製綿を底に1cm厚ほど敷き、コンセントをボックスにネジ止めする。これが完了したら、周囲を水晶の粒で埋め尽くし、プレートを取りつける。最後はテスターで導通を確認することが大切。
アコースティック・リヴァイブのカーボン・シールド・メッシュチューブの装着によつてケーブル表面の静電気を除去し、振動低減とシールド性も高めた。
フルテックNCF Boost er Signalを2セットに、クレイドル2枚を追加。コンセントボックスの上下を挟み、振動と

角田製作所のタップをこう聴いた

評価 / 福田雅光

予想外の作りだ。フルテックのNCFブースターががっちりボックスをくわえ込む。アイデアですね。支持脚もかねて制振効果は万全。レスポンスに優れた立ち上がり、透明感の高いきれいな中間帯域。硬質感は発生しない。パークッションはすつと抜け切る。低音も力を出すのだが低音弦楽器の帯域は、かなり肉厚だがコントラストや旋律の明確さはややぬるい印象で惜しい。プラグはフルテック最高級。これ性能はFI-48M (R) NCFの方が高い。プレートもフルテックの最高級品。これは優れたパーツだ。しかし、プレートの固定の方法はデリケートで、ここではプレート部も同時にくわえ込むというのはベストでないかも。もっと性能は高くなるはずだ。

静電気を低減させた。独創的なデザイン性も狙った。
さらに私にとつて重要なポイントとして、インターネット等で購入できる水晶の粒（アコースティック・リヴァイブでも購入可能）をコンセントボックス内に収容し、振動低減と電磁波排除、ボックスの重量化を行った。以前、同社から発売されたシルク製綿も、約1cm厚でボックスの底面に使用した。これは、聴感上の音の透明度を高めるためである。